第２０号
玉寶山 長光寺
〒169-0073
東京都新宿区百人町1-5-2
TEL:03-3209-5360
FAX:03-3200-7026
http://www.chokoji.net/

不二ということ

住職　松倉太鋭

禅の修行は難しいとよくいわれます。しかし、その理由については、誤解があるようです。禅の修行で難しいのは、長い時間膝を組んで座り、坐禅の姿勢を保つことだと思われているのではないでしょうか。しかし、それよりも難しいのは心を混じりけのないものにしておくこと、そしてその心を維持することが中々大変なのです。

そして一番大事なことは「二つ」に見えるけれど「一つ」に見るということです。身近な例で譬えますと私たちの「身体」と「心」が二つであると考えるのは間違いです。私たちの「身体」と「心」は二つでありながら一つなのです。そのことを不二という言葉で語られています。

一つのものを二つに捉える経験は赤ちゃんの時代に学びます。赤ちゃんは生まれた時は何もできません。でも”生物の奇跡というべき母性“を与えられた母親が一生懸命かわいがって育ててくれます。生まれたばかりの赤ちゃんはそのとき“零”ということを先天的に知っています。しかし十六ヶ月経つと“一”を覚えます。一を覚えるということは父親も母親も一、動物も人間も大自然もすべて一、赤ちゃんは一の世界を十六ヶ月かけて覚えるのです。

ところが三十二ヶ月たつと“二”を覚えます。この二が問題なのです。知識持ったり、自我が芽生えることは生物として大事なことです。ただその時に「良い、悪い」「勝ち、負け」「損と、得」「好き、嫌い」の二つにものを分けることを覚えます。二つに分けて考えることを人「分別心」といいます。この分別が人間は小さい時から身に付けてしまい、このことが、苦しみや悩みというものにつながります。とくに「好き、嫌い」という感情だけで、ものごとを判断することは生きる上で避けたいものです。

分別というものが、このように人間の心を濁らしてしまう。坐禅はそういうことをやめ、零にいたします。零というすべてを越えた世界を教えてくれるのです。

私たちが合掌することも、本質は二つであって一つであるということを、身体で行う尊い行なのです。

長光寺の歴史

創建当時の梵鐘に刻まれた銘には左記の文が刻まれたようです。

創基文禄　占地武陽　山称玉寶　寺号長光
華鯨新就　篆刻含章　声通下界　響徹上方
祖庭良範　佛国金楊　一人発信　衆檀鐵力
大功不宰　弘願如玉　億万年後　出迹窮蒼
維時元禄十一年戊寅夷則如意日
前惣持当寺二世海翁寒刹和尚
（意味を簡単に述べると）

文政寺社書上

「お寺の始まりは文禄年間。場所は武蔵野の地。山号は玉寶山と言い。寺の名前は長光寺。この度鐘を新しく鋳込み。茲に文を刻む。鐘の声は下界に通じ。響きは天上に届き。先達は良き範を示し。仏教の教えが益々広がり。一人の信心は。多くの檀信徒の懺悔の力となり。その功徳はいつまでも途絶えず。広き願は玉の如くで。億万年の後になっても。その繁栄は続きますように願う

これ時、元禄十一年七月吉日、さきの總持寺(大本山に一夜住職した)長光寺二世海翁寒刹和尚の代に鋳る。」

といった意味の文が刻印されていたと記録があります。ただ前回にも申し上げましたが、現在この梵鐘はありません。内田氏の篤信で堂内の殿鐘は新設されましたが、大きな梵鐘はたとえ新しく鋳込んでも、都市の騒音になってしまいます。大きな梵鐘の音声の響きは、心が落ち着き良いと感じますが、近隣の住民の方には騒音として聞こえるかもしれません。

ヨーロッパの歴史ある都市に行くと教会の鐘の音が、あちこちから聞こえてきてまいります。静かな鐘の音を聞いていると、何となく心が澄んでくるような感じになって、その町の歴史の奥深さが感じられてきます。

東京は近代日本の首都ですが、江戸三百年の歴史の都でもあります。奈良や京都には梵鐘が似合って東京はダメという論理はありません。新宿という街にも本当は静かに鐘の音を聞くようなゆとりがあっても、好いのではないかと存じます。

いずれ「しあわせ薬師」の御堂の近くに小さなもので「しあわせの鐘」をお参りする人が撞けるようにしたいものです。その時には忘れずに江戸時代に刻んであった銘文を復刻したいと願っています。

坂東観音巡礼

十一月十七日、マイクロバスにて檀信徒の方、お写経、梅花講の方、総勢二十名で坂東観音札所巡礼を行いました。第一番の杉本寺をはじめ鎌倉方面のお寺をお参り致しました。幸いお天気にも恵まれ、信仰深い皆様とともに紅葉を楽しみながら、無事参拝することが出来ました。

「妙法蓮華経」の中の「普門品第二十五」に「真心をもって一心に観音の御名を称えれば、その音声を観じてたちどころにわれわれの苦悩を救いたもう」と説かれています。

観音様の広大無辺なお慈悲を信じて一心に念じたならば願いが叶うばかりでなく、心にやすらぎと喜びが湧いてくることと思います。

坂東は関東一円、とても広範囲なので一年に二回ずつ回っても満願するには四年かかります。札所巡礼は一番から順番に回らなくてもよいそうです。途中からでも是非、観音様とのご縁を深め、仏道修行の第一歩としていただきたく、ご参加お待ち申し上げております。

次回は来年の春頃を予定しております。

一番札所　杉本寺にて

四国の旅

峯の色　谷のひびきも　みながら

わが釈迦牟尼の　声と姿と

松倉徳允

四国遍路で使用した杖と傘

梅雨が明けきれてない七月上旬に、私は東京を出て四国へと出発致しました。今年ついに千二百年目を迎えた四国遍路の旅をする為でございます。四国遍路とは、弘法大師空海様が四国の地で生まれ、修行した八十八カ所の寺院を巡る旅のことです。同行二人（どうぎょうにん）と呼ばれ、遍路の際に持つ杖を弘法大師様そのものと見立て、旅の間は常に弘法大師様と一緒であるとされております。

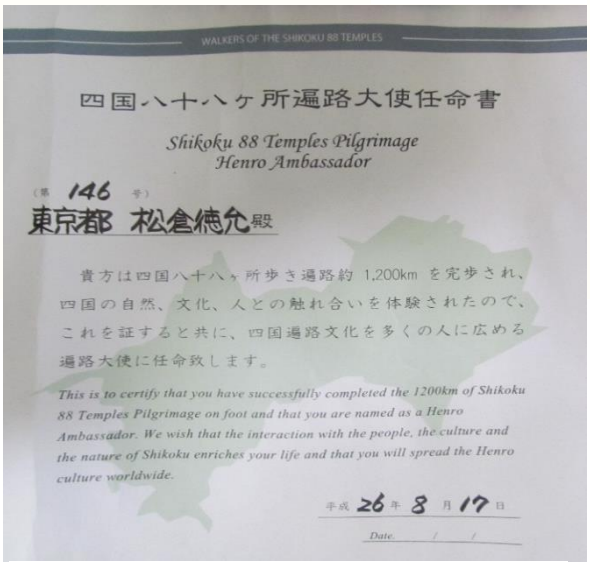
遍路中は、現代の便利さを常に感じておりました。足裏の痛みに耐え、日中に足が棒になるまで歩いても、車が一時間走る距離に遠く及びません。家やホテルがあれば心配することなどなに一つございませんが、野宿だと虫や蛇に悩まされながら寝なければなりません。体力も満足に回復しないまま、次の日の朝を迎えることになります。東京に居た頃は、普段利用していたものが当たり前過ぎて、その便利さを感じることができませんでした。しかし遍路生活や、永平寺での修行生活を経て、今までの自分の生活はどれほど便利で、満ち足りていたのか気づくことができたのです。

人間はたとえ満ち足りた生活を送っていても、多くの方はそれが当たり前過ぎて気づくことが出来ておりません。そして満足できずに、次から次へと求めていきます。それ自体は悪いことではございません。しかし今あるものから、さらに余計なものを求めるから、自分の人生が一層せわしなくなっていくのです。私たちは今ここにあるものが全てであり、それだけで満ち足りております。遍路の旅で、私は今の自分の生活がどれほど満ち足りているか知りました。便利なもので溢れる東京に住んでいるだけでは、きっと気づくことは難しかったでしょう。人との関係や社会のしがらみを全て脱ぎ去って、身一つで弘法大師様と長い一人旅をして、ようやく気づくことができたのです。

冒頭で詠った歌は、道元禅師様が「渓声山色」の巻で詠ったものでございます。峯の色や谷川の響きも、すべてがお釈迦様の声や姿の体現であるという意味です。道元禅師様が悠然と佇む自然を見て、感じたことをこの歌に込められました。私も遍路の旅の中で、東京では見られない多くの自然を見て回り、その中にあるお釈迦様の教えを心静かに見つめることができました。そして今の生活だけでは得られない、大切なものを学ぶことができたのです。

道元禅師様がお亡くなりになる際に説いた「八大人覚」の「知足」という言葉がございます。足りていることを知る、という意味です。遍路の後、今は日常の一つ一つが大変ありがたく感じております。私たちは日常のそんな些細なことに気づくだけで、きっと誰もが少しだけ幸せになれるのでしょう。このことに気づかせて頂いた道元禅師様や弘法大師様、他にも遍路の旅で温情を頂いた多くの方々に心より感謝申し上げます。

地図提供 CraftMAP 様



WALKERS OF THE SHIKOKU 88 TEMPLES

四国八十八ヶ所遍路大使任命書

Shikoku 88 Temples Pilgrimage
Henro Ambassador

（第 146 号）
東京都　松倉徳允殿

貴方は四国八十八ヶ所歩き遍路約 1,200km を完歩され、四国の自然、文化、人との触れ合いを体験されたので、これを証すると共に、四国遍路文化を多くの人に広める遍路大使に任命致します。

This is to certify that you have successfully completed the 1200km of Shikoku 88 Temples Pilgrimage on foot and that you are named as a Henro Ambassador. We wish that the interaction with the people, the culture and the nature of Shikoku enriches your life and that you will spread the Henro culture worldwide.

平成 26 年 8 月 17 日

Date.　/　/

八十八番札所手前で配布される任命書

施食会のお知らせ

本年度もまた五月二十三日に施食会を行います。いつもは平日のために来られない方もおりますが、今年は幸いにも日に恵まれ、土曜日となりました。普段出られない方も是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

初詣は長光寺へ

お正月は長光寺の御本尊様と、ご先祖様のお参りをすることをおすすめします。檀家の皆様のお話を伺っていますと、お正月はお墓参りをしてはいけないと思っている方がいらっしゃる様ですが、新年だからこそ、ご先祖様に報恩のお参りをしていただくことが大切な事と存じます。

長光寺では元旦から皆様のお参りをお待ちしています。お参りにいらっしゃった方には、新年の祈祷をしたお札を差し上げます。

長光寺の年間行事（平成二十七年）

一月一日～三日　大般若祈祷
二月十五日　涅槃会
三月　春の彼岸会
四月六日　花まつり
十三日　坂東観音巡礼
五月二十三日　施食会
七月　盂蘭盆会
九月　秋の彼岸会
十二月一日～八日　臘八摂心
八日　成道会

その他月行事として第一、第三土曜日に経験者様向け坐禅会。第二、第四土曜日に初心者様向けの坐禅会を、どちらも十四時から行っております。また梅花講、写経会を第二、第四月曜日（変更あり）に行っております。詳しくはホームページをご覧ください。

年間行事、月行事、どなたでも参加できます。是非体験してみて下さい。

編集後記

◆下りてからの一年

昨年の十月に永平寺を下りてから、すでに一年が過ぎ去りました。三年近く山の中に籠っていたので、帰ってきた当初は新宿の目まぐるしさに中々馴染むことができませんでしたが、この一年ですっかり都会の喧騒に慣れてしまいました。

永平寺で学んだ知識や心得は、長光寺へ戻った後も様々な形で活きています。大学だけでは仏教の深さを学ぶことはできないと実感できる一年でございました。先輩方がよく「山を下りてからが本番」だと言っておりましたが、身をもって実感することが出来ました。修行で学んだことを、坐禅会や法要などを通じて、皆様に伝えることができたら大変嬉しく思います。

新しい年が始まりますが、どうぞ皆様来年もまたよろしくお願い申し上げます。